



12月といえば「クリスマス」を連想される方も多いと思います。
表紙の写真は、夜の大阪空港に着陸しようとする飛行機です。

僕が空港の誘導灯の灯りに、頼もしくて、またどこかほっとするような感情を抱くのは、もしかするとクリスマスの日を舞台にした、ある映画の影響かもしれません。ブルース・ウィルス主演の「**ダイ・ハード2**」(1990年米)です。

絶体絶命の場面
多すぎちゃうの
...



普段は離れて暮らす妻とクリスマスに会うため、空港に迎えに来ていた主人公マクレーン警部(ブルース・ウィルス)は、空港を襲い管制機能を制御不能に陥れたテロリスト集団とハラハラドキドキのバトルを繰り広げます。物語の終盤、目的を達成した犯人グループは逃走の為飛び立とうとする飛行機からマクレーンを振り落としていざ離陸。これで万事休すと思いきや、マクレーンはエンジンの燃料バルブを振り落とされる際に開けていて、漏れ出していた燃料にライターで火をつけると炎が導火線のように燃料を伝い、テロリストグループを乗せた飛行機は飛び立った瞬間に大爆発。

そしてその燃料を伝う炎が滑走路の誘導灯の代わりとなり、上空に残っていたマクレーンの妻が乗る飛行機がその灯りを頼りに着陸し無事に助かるという痛快なアクション映画です。

マクレーン警部は滑走路に降り立った妻の無事確かめて抱き合います。

2人によく訪れたクリスマスを祝うかのように、バックに流れる

「Let It Snow! Let It Snow! Let It Snow!」の歌が何ともしゃれていました。(^^)



12月には、「**師走(しはす)**」という異称があります。

中学生の頃、12月は先生が忙しくて走り回るから「師走」なんだと担任の先生から聞いたような気がします。本当は語源はハッキリしないそうです。もしかすると「先生は忙しいんだからあまり手を煩わせるなよー。だって師走っていうだろう」みたいなノリで僕ら悪ガキに言っただけなのかもしれません。(;>_<)

先日、**キャリアコンサルタント**の資格取得を目指す方に対して人事労務や社会保険の講習をさせていただく機会がありました。あくまで本来の講師の方の代役なのですが、僕が普段やっているような講習とはまた違う、まるで耐久レースのような1日8時間の「**授業**」です。

僕の拙い授業で受講された方には誠に申し訳なかったのですが、僕の方は受講者の皆さんの瞳に宿るキラキラとした希望の灯りに、かえってエネルギーをもらってとっても刺激的な日となりました。

でも歳のせいか終わった後はバテバテ。(^^ゞ

ほんの先生の真似事に過ぎないのですが、いやはや先生って大変です。



さて、衆議院は11月19日の本会議で、教員の勤務時間を年単位で管理する「**変形労働時間制**」の導入を柱とする教職員給与特別措置法改正案を可決しました。教職員の「**働き方改革**」の一環として、繁忙期の勤務時間の上限を引き上げる代わりに、夏休み期間中などに休日をまとめ取りできるようにするとのことです。持ち帰りの仕事も当たり前のようにあつたりする教職員の方の労働時間の管理については、言わばアンタッチャブルでした。

かつて聖職といわれた世界にも「働き方改革」の波は確実に押し寄せています。先生という存在は、子供たちにとっては空港の**誘導灯**になぞらえることができるかもしれません。

それは頼もしい希望の灯りであってほしいし、消耗した灯りにしてはいけません。

忙しい「師走」といえども、学校の先生方もクリスマスや正月はご家族と平和に過ごしてほしいものです。

We wish you a merry Christmas and a happy new year.♪ てね。(^^)/

